

三つ峠山山行報告

【山行日】2017年 12月 31(日)～1(月)

【集 合】岩舟町役場P AM 7:00

【費 用】マイカー1台 : 13,000円

【メンバー】CL:鈴木、岩淵、津佐、鶴見、渡辺

【コースタイム】31日:岩舟町役場 P7:00=いこ

いの森 P9:00/9:20～達磨石 9:40～股のぞき

10:30/10:40～八十八大師 11:20/12:00～四季楽

園 12:50/13:10～三つ峠山 13:30/13:40～

四季楽園 13:55

31日 晴れ後曇り いこいの森公園から三つ峠

表登山道を登り三つ峠山山頂へ登った後、四季楽園に宿泊する。



I 淵さんから「お正月はヒマなので、何処か山を計画してください」と依頼があり、去年三つ峠山に登った。大みそかから登り、元日に初日の出を拝んだが「とても素晴らしかったので来年もお願いし



ます」とせがまれ今年も月例山行で計画した。

大みそかの高速道は空いていて、予定よりも30分早くいこいの森公園に着いた。天気予報は曇りの予報だったが、風が無く薄日が差しこれから登る三つ峠山が良く見えている。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを済ませ出発する。駐車場を出て林道を登って行き、道標に従って橋を渡ると達磨石に着く。達磨のような形をした自然石に、大日如来を意味する梵字が刻まれた達磨だ。達磨石

の裏側の山道を登り、林道を横断して登山道に入る。きつい急登が続くが、大曲と呼ばれる平坦地に着けば一息つける。ここから山腹を巻くように登り、尾根上に出た所が「股のぞき」で初めて富士山を拝むことが出来る。ここからも急登が連続し、馬返していったん傾斜が緩むが、さらに急登が続く辛い所だ。急な岩の間を登るようになり、愛染明王等の仏の名が付いた岩が出てくると間もなく、石仏が並ぶ八十八大師に着く。ここにはベンチがあり、富士山の眺めが良い場所でランチタイムとする。ただ曇ってしまい富士山は見えなくなりました。今日の山ご飯は超豪華版で、愛妻が数日かけて作ってくれた牛タンシチューとサラダにパンをいただく高級レストランメニュー。



I 淵さんは、今日は山に登るよりも、ランチを楽しみにしていたようだ。牛タンシチューを温めて皿によそい、ブロッコリーや生クリームをトッピングし美味しくいただいた。八十八大師をあとに山腹道を進むと、崩落した岩礫の斜面を通過し氷結した滝を橋で渡るが、渡った先の道が氷結し慎重に通過

する。壊れた茶店の跡を過ぎると、屏風岩の基部に出て岩に沿って平らな登山道になる。屏風岩は



クライミングの好ゲレンデとして、シーズンには多くのクライマーで賑わう場所だ。岩壁基部の西端から急斜面を階段でひと登りすると、山小屋の四季楽園の前に出る。小屋の前のベンチで休憩し、ザックをデポして三つ峠山頂に向かう。山頂へは北側に立つ富士見山荘前を通り、砂礫のザレた斜面を登ると三つ峠山頂に出る。あいにくのくもり空で眺望は得られなかったが、山頂の石碑の前で記念写真を撮り四季楽園へ戻る。四季楽園で受付を済ませ、3階の大広

間に案内された。広々とした部屋に炬燵が2つあり、我々は窓際の炬燵を使うことにした。入口側には若い男性4人組が来て、30畳くらいの部屋をゆったり使用できた。着替えを済ませ、荷物を整理したら1階のストーブの前に座り、常連のオジサンたちのお話を聞いた。皆さん写真のプロで、三つ峠山の花や富士山の写真を撮りに四季楽園に通っている方達だ。朝からお酒を楽しんでおり、褒め上手のT見さんが写真を見たいと言うと、自分が撮った花の写真の絵葉書を5枚プレゼントしてくれた。

3時から自分たちの部屋に戻り、いつもの宴会が始まる。ビールやワインで乾杯し、山の話で盛り上がりアツと言う間に夕食タイムになる。年末年始は特別料金で通常より1000円高いが、年越しそばやお刺身、エビフライなど食べ切れない程の料理出るので皆さん大喜び。山の上でマグロの刺身で日本酒を飲めるのは、この山小屋位だと思う。大満足で部屋に戻り、今年



のジャンケンゲームは無しとの事なのでそのまま布団にもぐりこみ就寝する。皆さんは炬燵に足を入れて寝たが、我輩は広々とした場所に一人で寝たので、朝まで爆睡することが出来た。

1日: 四季楽園 6:30~三つ峠山 6:45/7:00~四季楽園 7:10/8:10~八十八大師 8:40/8:50~

股のぞき 9:20~いこいの森 P9:50/10:00=羽生 PA11:40/12:20=岩舟町役場 P12:50

1日 快晴 三つ峠山頂で初日の出を拝み、四季楽園で朝食をいただき往路を下山



今日は三つ峠山頂に行かず、山荘脇の木無山の稜線で初日の出を拝む予定だった。ところが、瀨さんが早々と外に出て、木無山へ行くと写真家のオジサンが「今日はとても条件が良いので山頂へ登ったほうが良い」と言っていたと言う。皆さんに聞くと「山頂まで登りたい」と言うので、急遽支度して山頂に向かうことにした。山頂は風があるので防寒対策を指示し、我輩もネックウォーマーやホッカイロを身に着け完璧な防寒対策をして山頂に向かう。山頂にはすでに30人くらい登っており、場所を

確保して日の出を待っている。我々もそれぞれ良い場所を確保し、カメラを構えてご来光を待つ。

東の空が段々赤く染まり、ひときわ赤い中央部からピカッと輝いて見えると歓声上がる。2018年の初日の出を三つ峠山頂で迎えることが出来、一年間の安全登山をお祈りし幸せな気持ちに浸ることが出来た。朝日を受けた富士山も神々しく、真白に輝く南アルプスの山並みも素晴らしかった。皆さん写真を撮りながら、笑顔で「今年の初日の出は良かったね～～」と満足そう。全員で富士山バックに記念写真を撮り、もう少し居たいようだが下山する。四季樂園まで戻るが、皆さんは途中で写真を撮り中々戻ってこない。全員揃ったら食堂へ行き朝食をいただく。朝食もおせちやお雑煮が付、海苔や納豆など普通のおかずも付いてとても美味しい。女性達は「お正月に何もしないで食べられるなんて超幸せ！」と嬉しそうだった。朝食が済んだら下山の準備をし、トイレを済ませて靴を履く。少し時間があるので木無山へ登り、富士山と南アルプスをバックに徳ちゃんとT見さんの写真を撮る。



全員揃ったら出発し、山荘前の階段を降りて行く。下りは南側の斜面を下るので、日差しを受けて風も遮られるのでとても暖かい。富士山がくっきりと凜々しい姿を見せていて、「こんなに富士山が綺麗に見えるんだ～」と楽しそうに下って行く。氷結した滝も陽があたり、一段と輝いて美しく見える。

アツと言う間に八十八大師まで下り、休憩をとり衣服調整と水分補給をする。今日は富士山がバ

ッチリ見え、「こんなに良く富士山が見えたんだ」と納得していた。ここからもルンルン気分で快調に下り、股のぞきで最後の休憩を取る。ここで富士山は見納めなので、リンゴを食べながらじっくりと富士山を睨に焼き付ける。ここからも急坂を一気に下り、達磨石に着いた。達磨石で記念写真を撮り、林道を10分程下るといこいの森公園に着いた。靴を履き替えトイレを済ませ、後ろを振り返って三つ峠山に別れを告げ帰路に着く。当初の予定では談合坂SAで昼食の予定だったが、時間が早いで羽生PAまで行くことにした。高速道は渋滞も無く順調に走り、羽生PAで昼食を食べお土産を買った。佐野藤岡ICで多少混雑したが、予定より2時間早く岩舟支所に帰着出来た。

